

社 会

(2014年度)

《注 意》

1. 試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開けてはいけません。
2. 問題用紙は9ページまであります。解答用紙は2枚です。試験開始の合図があったら、まず、問題用紙、解答用紙がそろっているかを確認、次に、すべての解答用紙に「受験番号」「氏名」「整理番号（下じきの下方の番号）」を記入しなさい。
3. 試験中は、試験監督^{かんとく}の指示に従いなさい。
4. 試験中に、まわりを見るなどの行動をすると、不正行為^{こうい}とみなすことがあります。疑われるような行動をとってはいけません。
5. 試験終了^{しゅうりよう}の合図があったら、ただちに鉛筆^{えんぴつ}を置きなさい。
6. 解答用紙は書いてある方を表にして、上から、（その1）（その2）の順に重ね、全体を一緒に^{いっしょ}裏返して置きなさい。
7. 試験終了後、書きこみを行うと不正行為とみなします。

次の文章をよく読み、9ページの地図を見て、7ページから8ページにある問いに答えなさい。

あつというまに一学期も終わり、明日からは小学校最後の夏休みが始まる。開放的な気分になりかけるのとは裏腹に、少しだけ夜のことが気になっていた。終業式の夜は、近所に住んでいるおじいちゃんの家で、家族で夕ご飯を食べに行くことになっている。もらったばかりの通知表をみんなで眺めて、あれこれとしゃべりながらお茶でも飲むんだろう。毎学期のことだとはいえ、楽しい行事というわけにはいかない。それでも今学期の成績なら……という手応えもあった。

「なかなかやるじゃないか」

感心したようにおじいちゃんが息をつく。

「いやあ、これだけできるなら大したもんだ。おまえの父さんも成績は悪くはなかったが、ここまでじゃなかったような気がするな」

おじいちゃんの言葉に父さんが身体を起こす。

「親父は孫には甘いからなあ、おじいちゃんの言葉を真に受けるなよ」

まるで本当は自分のほうが成績が良かったと言わんばかりの父さんの様子を見て、ちょうどスイカのおかわりを持ってきたおばあちゃんが笑いをもらす。

「昔の通知表なら残っているわよ。持ってきてましょうね」

意味ありげに笑いながら空になった皿を取り上げると、おばあちゃんは足音を残して部屋を出て行った。

「まったく……。昔から教育ママだったからな。いらないものばかり残しているんだ」

余計なことをしてくれたとばかりに、父さんは天井を見上げた。その視線の先では、おばあちゃんが二階の物置を探っているはずだ。40年ちかくも前の、父さんが小学生だったころの通知表は、いったいどんなものだったんだろう。

昔の小学校に想いを馳せていると、階段を下りる足音がしておばあちゃんが戻ってきた。「あったわよ、通知表。それからその時の教科書も一緒に入っていたから持ってきてやった」

おばあちゃんが広げてくれた通知表には、国語や社会、算数、体育なんかについて、AやBがたくさんならんでいる。

「本当はAからCまであるんだぞ。でもまあ三段階評価という点では、今の通知表と同じだな。A、B、Cが、それぞれ今の◎、○、△にあたるということだ。今みたいに絶対評価じゃなかったけどな」

「絶対評価って？」

「ああ、今はきちんと理解できてたら、みんなに◎がつくだろ？ 昔は①相対評価ってって、クラスでAが何人、Bが何人って決まっていたんだ。だからできる子ばかりのクラスだと、点数が良くてもAがもらえない、なんてこともあったな」

見られても恥^はずかしくない内容だったことに安心したのか、新しいスイカに手を伸ばしながら父さんが笑う。

「おじいちゃんのころはどうだったの？」

「通知表は甲、乙、丙、丁で表していたんじゃないかな。とはいっても勉強どころじゃなくて、甲をもらえたのなんて体錬^{たいれん}くらいのものだったんだけどな」

体錬ってなんだろう。疑問に思っている僕の表情に気がついたのか、おじいちゃんは昔の学校について説明をしてくれた。

「体錬というのは今でいう体育だな。男子は上半身裸^{はだか}で乾布摩擦^{かんぶまさつ}をしたし、剣道^{けんどう}や銃剣術^{じゅうけんじゅつ}もあったんだ。そうそう、射撃^{しゃげき}や突撃^{とつげき}の訓練もやったし、行進なんかは足並みがそろわないと何回でもやり直しをさせられた。大変だったよ」

僕らも運動会の練習で行進をすることはあるけど、それとは比べものにならないくらい厳しかったんだろう。同じような行進の練習ひとつとってみても、おじいちゃんの時代と今とでは、ずいぶんと違^{ちが}ってきている。

時代によって小学校は変わってきているんだ、ということを見ると、おじいちゃんは大きくうなずいた。

「そうだね。昔は体錬や勤労奉仕^{ほうし}に時間をとられたりして、授業の時間を満足にとることもできなかったし、校舎も木造だったし、今とはだいぶ違っているだろうね」

ところが、父さんは「本当にそうか？」と、別の見方をした。

「意外と変わっていない部分も多いんじゃないかな。②毎週決まった日に休むということなんかも、明治時代に小学校が始まってから広まったことだろ。学校でみんなで歌を歌う、体操をする、運動会をする、決まった時間に登校する……。学校はいろいろなことを新たに持ち込んだんだ。それって今も昔も変わらないことじゃないかな」

「学芸会とか、修学旅行とか、卒業式とか、そういうものって、おじいちゃんのころからあったの？」

「卒業式はあったけど、修学旅行どころじゃなかったなあ。おじいちゃんたちは(あ)疎開^{そかい}をしていたからね、あれは大変だった」

「いつ戻ってきたの？」

「1945(昭和20)年の11月だね。でも戻ってきてもしばらくは授業もなくて、やがて学校も大きく変わったんだ。教科書を全部持って集まるように言われて、行ったら『先生が言うところを墨^{すみ}で塗りつぶすように』って指示されてね。それまでの教科書はほとんど使い物にならなくなってしまった」

墨塗りについては歴史の本で読んだことがあったけど、まさか自分のおじいちゃんが体験していたとは知らなかった。

「勉強する内容が変わったってこと？」

「大きく変わったね。そういえば、社会科では病気についても勉強したな」

「えっ、社会科で？」

「そうだよ。新しい教科書に『外から帰ってきたら、手を洗ったり口をゆすぐ習慣をつけましょう』なんて書かれていたりしたんだ。当時、病気は社会問題とも言えたからね」

同じ社会科でも、詳しくみると取り扱^{あつか}っている内容は時代とともに変わっているのだろう。社会が変わるから、それに合わせて社会科の中身も変わる。言われてみればあたりまえのことだけど、なんだか新鮮^{しんせん}だ。

「昔の地図帳を見ると、世の中がどう変わったのかわかりやすいよ。面白いから取ってあるんだ。ちょっと待ってな」

僕の感想にそう返答すると、おじいちゃんは「よっこらしょう」と背もたれをつかんで立ち上がり、「そろそろ我が家も(い)バリアフリーを考えないといけないな」とつぶやきながら二階の書斎^{しやさい}から二冊の古い地図帳を持ってきた。

「こっちが、おじいちゃんが中学生の時に使っていた地図帳だ。見てごらん」

開いてみると、最初のページに世界地図が載^のっていた(9ページの地図1)。今でも見る地図だと思ったけれど、よく見ると僕の知っているものと違っている。

「③今とはだいぶ違うんだね。知らない地名がいっぱいあるよ」

一通り見終えると、もう一冊の地図帳が気になった。

「こっちはおまえの父さんが中学生の時の地図帳だよ」

「よく取ってあったなあ……」

今度は父さんが呆^{あき}れたように声を上げた。

開いてみると、ほとんどのページがカラーになっていて、僕の使っているものとそんなに違っていないように思えた。それでもどこかは変わっているんだろうと思いながらページをめくっていると、父さんが『列島の交通網整備^{こうつうもう}』と書かれた地図を指さした。

「この時は東海道・山陽新幹線も博多^{はかた}までは行っていなかったし、東北新幹線もできてい

なかったんだなあ」

「新幹線の開通は高速交通網整備の始まりだったし、意識の上で日本列島を縮めたという点で、④日本にとって大きな節目になる出来事だったんだらうね」

父さんはおじいちゃんと顔を見合わせて懐かしそうに笑った。そして隣のページにある『国土の高度利用』という地図を見て、気がついたように聞く（9ページの地図2）。

「そういえば、今でも太平洋ベルトとか四大工業地帯って教わるのか？」

「太平洋ベルトは教わるけど、三大工業地帯って教わったよ。昔は北九州も含めて四大工業地帯だったって」

見ると、僕が知っている工業地帯の他に、⑤新産業都市や工業整備特別地域と書かれた地域が日本のあちこちにあった。今では聞かないけれど、昔はそういうものもあったんだらう。僕の習ったものとはだいぶ違っている。

しばらくそれぞれに地図帳や教科書を眺めていると、父さんが「懐かしいなあ、こんなことを昔は勉強していたんだ」と声を上げた。開いているのは父さんが五年生の時の社会科の教科書だ。

「工業とか農林水産業とか、こんなに詳しく勉強していたんだな。林業なんて今は教科書に載ってないだろ」

そんなことはなかったはずだ。ずっと前にやった授業の内容を必死で思い出す。

「⑥林業の勉強はしたよ。だけど父さんの教科書みたいに工業とかと一緒にじゃなくて、別のところで少しやっただけじゃなかったかな」

「なるほど、林業の扱い方が違うのは、1970年代と今との違いをよく示しているっていうことなんだな」

父さんは手に持っていた教科書を閉じて、「そっちの教科書は何か面白い違いとか見つかったか？」と覗き込んできた。僕の手元には歴史の教科書が開かれていた。

「僕の教科書とは詳しく扱っている人物が違う気がする。父さんの時代には、聖徳太子とか、源頼朝とか、徳川家康について詳しく書かれているんだね。でも僕が習った（う）平塚らいてうとか（え）雪舟とか近松門左衛門についてはあまり書かれてないし、雨森芳洲とか柳宗悦なんかぜんぜん載ってないよ」

「へえ、時代が変わると教科書に載る人物も変わるんだな。しかし雨森芳洲とか柳宗悦って誰だ、そんなのぜんぜん勉強しなかったぞ」

「おじいちゃんのころは乃木希典とか広瀬武夫とか軍人も多く扱われていたが、おまえらは知らんだろ。時代によって変わるんだから、知らなくても恥ずかしいことはないぞ」

それが世代の違いだと、おじいちゃんはそう言って笑った。

「そういえば最近はいちかわさまで教科書に載っているって新聞で読んだな。おじいちゃんにとってみれば市川房枝なんて同じ時代に生きていた人という感覚だから、歴史上の人物だなんて信じられないくらいだ」

「いろいろな分野で女性がリーダーシップをとることも多くなってきたから、これからは歴史の教科書にも女性が増えてくるのかもしれないってことだな」

父さんが言うと、おじいちゃんが「おまえの母さんが教科書に載る日も、いつか来るかもしれないぞ」と冷やかす。

うちの母さんはアメリカに本社のある会社で、得意の英語を生かして外国の人たちと仕事をしている。とても忙しそうだけど、いつもすごく楽しそうに仕事の話をしてくれる。

父さんも働いているけど、いつも母さんより帰宅が早い。僕が保育園に行っていたころは、だいたい父さんが迎えに来てくれていたし、授業参観もいつも父さんが見に来てくれる。毎日の夕食の準備だって父さんがやることになっている。最近流行のイクメンというやつだ、と言って父さんは笑っていた。

そういえばこのあいだの運動会の時、父さん特製の弁当を食べながらクラスメイトと話していたら、そんな我が家のスタイルがみんなの家と違っていることが話題になった。聞いてみると⑦母親が家事を全部やっていて、父親の帰宅時間が遅い家も多いらしい。

「ずいぶん忙しそうでものねえ」

母さんの話になってきたところで、横で聞いていたおばあちゃんが言う。

「まあね。最近は夜中に帰ってくることも少くないよ」

父さんがさらりと答える。

「わたしの時代には考えられなかった光景ね。夫のおまえが家を守って、妻が一家を支える大黒柱、って感じだもの」

「⑧家族のありかた自体、変わってきているんだよ。社会が変わってきているんだから、家族のありかただって変わって当然なんだ。夫が外で働き、妻が家を守るなんていう考え方にこだわるのはもう古いよ」

なんだか父さんがいつもと一味ちがう。ちょっとかっこいい。

確かに学校での教育内容ひとつとってみても、おじいちゃんや父さんのころとはだいぶ変わっている。社会の変化とともに、学校や、家族のありかただって変化していく。今まであまりに身近であたりまえすぎて、学校や家族について考えたこともなかったけど、おじいちゃんや父さんの時代と比較してみると、違いがよくわかる。

そう考えているうちに、おじいちゃんや父さんが過ごしてきた時代について、もっと知りたいという気持ちがわいてきた。よし、夏休みの自由研究は決まりだ。おじいちゃんやおばあちゃん、父さんや母さんにインタビューして、学校のこと、家族のことをもっと詳しく聞き取り調査してみよう。

こうして夏休みを前にして、僕の自由研究の課題が決まったのだった。

〈問題文はここで終わりです〉

問1 下線部(あ)(い)について。それぞれの用語の意味を説明しなさい。

問2 下線部(う)(え)について。これらの人物はいつの時代に、何をしたのでしょうか。例にならって、それぞれ説明しなさい。

例) 近松門左衛門：江戸時代に歌舞伎や人形浄瑠璃の台本をたくさん書き残した。

問3 下線部①について。相対評価は何がわかる評価方法ですか。絶対評価でわかることとの違いを明らかにして説明しなさい。

問4 下線部②について。毎週決まった日に休むということは、江戸時代の社会では難しいことでした。なぜでしょうか。江戸時代に多くの人々が属していた身分やその人々の働き方を考えて答えなさい。

問5 下線部③について。9ページの地図1を見て現在の地図との違いを一つあげ、なぜ違うのかを当時の世界の様子を考えて説明しなさい。

問6 下線部④のように、その前後で社会のありかたが大きく変わったとあなたが考える戦後の出来事を以下から一つ記号で選び、どのような社会になったのか、その変化を説明しなさい。

ア 第一次石油危機(1973年)

イ 国鉄の分割民営化(1987年)

ウ アイヌ文化振興法制定(1997年)

問7 下線部⑤について。9ページの地図2の新産業都市は、指定された時にどのような役割が期待されていましたか。その分布に注意して説明しなさい。

問8 下線部⑥について。林業の扱い方が1970年代と今とで違うのはなぜでしょうか。理由を二つ説明しなさい。

問9 下線部⑦のような家庭は、高度経済成長期に都市部のサラリーマン家庭で急激に広まりました。なぜでしょうか。説明しなさい。

問10 下線部⑧について。次の表は夫婦それぞれが働いているかどうかに着目して家族数を表したものです。表を見て夫婦の働き方の変化を二つあげ、そこから読み取れる最近の社会の変化をそれぞれ説明しなさい。

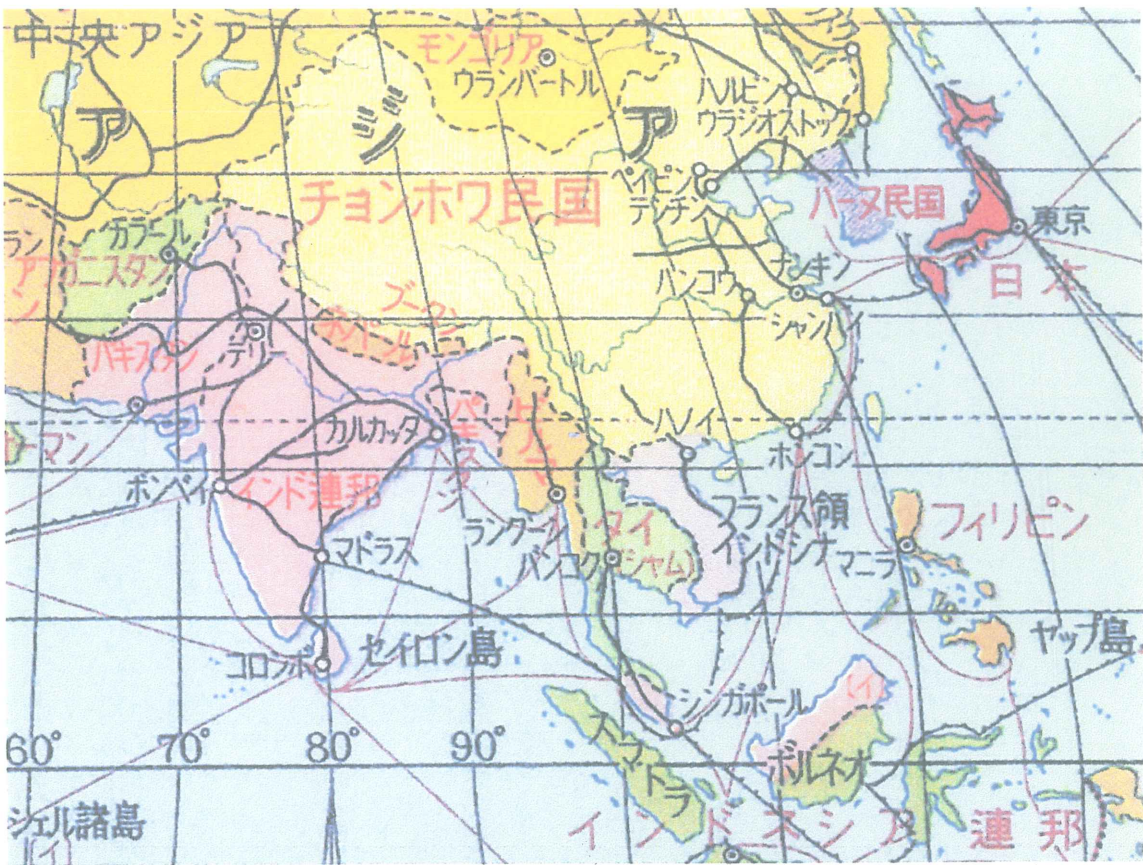
	総数	夫:働いている 妻:働いている	夫:働いている 妻:働いていない	夫:働いていない 妻:働いている	夫:働いていない 妻:働いていない
2000年	2870万	1319万	1032万	100万	417万
2012年	2944万	1321万	885万	124万	615万

総務省「労働力調査」より作成

問11 この文章には、親子三世代にわたる学校体験が記されていました。

- (1) 教えられる内容はどのように変化しましたか。おじいちゃん、父さん、僕のうち二人の体験を比較し、社会の変化を考えに入れて、40字以上60字以内で説明しなさい。ただし句読点も一字分とします。
- (2) おじいちゃん、父さん、僕の時代を通じて変わっていないことは何ですか。変わっていないことを一つあげ、社会が学校に求めてきた役割を考えに入れて、変わっていない理由とともに80字以上120字以内で説明しなさい。ただし句読点も一字分とします。

<問いはここで終わりです>



地図1 1950年ごろに使われた中学校用地図の一部



地図2 『国土の高度利用』の地図

受験番号	
氏 名	

(2014年度)

社会解答用紙(その1)

問1

(あ)

(い)

問2

(う)

平塚らいてう：

(え)

雪 舟：

問3

問4

問5

問6

記号

変化

問7

問8

(整理番号)

小 計

受験番号	
氏 名	

(2014年度)

社会解答用紙(その2)

問9

問10

問11 (1)

(40)

(60)

(2)

(80)

(120)

(整理番号)

--

小 計

--